

川で活動をする人たち

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで



水害に備えて訓練する「水防団」。水防団は町や畑などを洪水から守るために活動している人たち。日ごろはそれぞれ、畑や会社、店などで働いている。

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん

川はだれのものでしょうか？ 答えは「だれのもので
もない」です（小さな水路には個人のもものもありますが）。

これは、川がいろいろな地域を^{ちいき}通っていて、みんなが
水を使いたがり、みんなが川に水を流したが、みんな
が洪水にあいたくないと思っているからです。

だから、だれかが^{とく}得をする一方で、だれかが^{そん}損をする、
という不公平が起きないように、国や都道府県、市町村
が^{ぶんたん}分担して管理しています。

しかし、川はただ水が流れるだけの場所ではありません。
いこいの場所であり、楽しむ場所であり、自然が豊
かであるべき場所でもあります。

それぞれの川に対する思いから、仲間が集まり、さま
ざまな活動がおこなわれています。

魚が豊かな川にしよう

十勝の川は、魚が豊かな川でした。

しかし、開発が進み、川の環境が変わり、とりすぎもあっ
て、魚は減ってきたといわれています。

そんな中で、何とか魚が豊かな十勝の川を取りもどそうと、
さまざまな人たちが取り組んでいます。

サケの自然産卵を目指して、稚魚の放流や、わき水のわく
公園づくりを進める人たち、幻といわれるまで減ってしまっ
たイトウを、人工的に育てて復活させようという人たち、ヤ
マメ（ヤマベ）を放流して、釣りの楽しみを自分たちの手で
守ろうとする人たち、などが活やくしています。



おびひろサケの会による「サケの稚魚 市民放流祭」。売買川（帯
広市）。

「うちの川」をたいせつにしよう

身近に流れる小さな川を大切にしようという人たちもい
ます。

一人の住民によるゴミ拾いから始まり、やがて、何人が
が集まってグループをつくり、役所の人たちなどと話し合
いながら、川の自然環境を守る活動をおこない、子どもた
ちに川での体験の場をあたえるようになっていきました。

彼らは、町内会などいっしょに、草かり、ゴミ拾い、
植樹などをおこなって川を管理する「アダプトプログラム」
にも参加しています。

会員のKさんは、「釣りはきれいじゃないけど、この川
を泳ぐ魚は『オレンとこの魚』って気がして、釣る気にな
らないんだよね」と笑います。



ヌップク川（帯広市）で子どもたちと川遊び。「ヌップク川をきれいにする
会」の活動。

1 稚魚（ちぎょ）：魚の子どものうち、すべてのヒレのスジの数が、成魚と同じ数にな
ってから、ウロコができるまでの間のもの。（ p236）

2 アダプトプログラム：役所が管理する川や公園、道路などを、住民などの団体がそう
じや手入れなどをおこない、一方でその場所を使って草木を植えたり、活動したりでき
るようになるしくみ。アダプトとは自分の子どものように育てる、という意味。

川を通して地元の歴史を知る

おそらく2万年以上前から、そして開拓が始まってからも、川は十勝に住む人たちにとって、とても大切な「道」でした（ p126・p175 ） ですから、十勝の歴史を知ろうとする時に、川はとても大切なポイントになります。

大津（豊頃町）そして十勝川を中心に、十勝の歴史をさぐっていこうという人たちがいます。史跡をまわり、船で十勝川をめぐり、資料を探して整理し、過去に近づこうとしています。

ほかにも歴史をさぐる人たちは各地域にいて、中には、開拓者やかつての探検家たちの足どりをたどって、川ぞいを歩く人たちもいます。



大津（豊頃町）から池田市街まで、茂岩（豊頃町）で一泊して歩く。「十勝川渡船・駅選探訪（十勝川の歴史を探訪する会 主催）」の一コマ。



取り残された人をゴムボートで救助する訓練。平成15年（2003）の十勝川水防公開演習（豊頃町）。

さまざまな地域でさまざまな活動が

十勝の自然を守ろうとする人たちは、自然豊かな河川の実現をめざした活動をおこなっています。

また、住民、とくに子どもたちの自然体験の場として、川を活用している人たちもいます。

あるいは、スポーツを楽しむ場として、健康づくりや仲間づくりの場として、川を利用する人たちもいます。

ほかにも、清掃活動をする人たち、洪水の時に街や農地を守る活動をする人たち（左ページ上写真）人の命を助けるための活動をする人たちなど、多くの人々がそれぞれの地域で、それぞれの考え方で、川とつながり活やくしています。

活動団体同士をつなぐ ... 北海道エールセンター

「北海道エールセンター（帯広市）」では、北海道内で登録されている「子どもの水辺」についての情報を集めて公開しています。また、活動している団体を紹介、たがいの交流を進めてもいます。

北海道で30カ所以上が子どもの水辺に登録され、十勝では札内川の光南地区と大正地区（帯広市）、十勝川の熊牛地区（清水町）、利別川（池田町）、音更川（音更町）、途別川（幕別町）、伏古別川・ウツベツ川・帯広川・売買川・柏林台川（帯広市）の各水辺の楽校が登録されています。

エールセンターでは、そのほか、ライフジャケットやカヌーなど道具の貸し出し、指導者の案内、環境学習の手伝いなどをおこなっています。

また、川での安全な活動を広げるために、RAC（川に学ぶ体験活動全国協議会）の指導者養成講座を開いてもいます。（水辺の楽校 p225）



帯広市東15条南4丁目1-73先「治水の森」0155-20-3755 <http://yell.p1.bindsite.jp/cn17/index2.html>

3 史跡（しせき）：歴史的なできごとにかかわる場所や建物など。
4 子どもの水辺（こどものみずべ）：『子どもの水辺』再発見プロジェクトによって登録された場所。このプロジェクトは、平成14年（2002）より、国土交通省・文部科

学省・環境省が連携し、子どもが川をもっと利用し、よりよい体験活動がおこなわれるようにしようとしている。（<http://www.mizube-support-center.org/outline/mizube.html>）